

有馬温泉街に訪れる高齢者における観光動向並びに需要拡大について

文責 大阪商業大学 総合経営学部 経営学科 3年 三野環

調査目的

昨年度に引き続き、近畿からのアクセスがよく、京阪神の奥座敷とも言われ、高齢者層がたくさん訪れる観光地である有馬温泉を研究対象とした。昨年の有馬温泉の基礎調査の結果をもとに今年是有馬温泉に訪れる高齢者層を調査対象とした。

高齢者層を調査対象とするのは、今後増え続ける高齢者に対して対策をとること、高齢者層の観光客を増加させていけるのではないかと推測したからである。そのためには有馬温泉に訪れる高齢者の動向を調査し、より多くの高齢者に有馬の魅力伝えることが目的である。

日本の現状

現在、人口の 4/1 以上の高齢者（65 歳以上）がいる。今後さらに高齢化社会が進むといわれている。高齢化により、さまざまな市場が拡大されると予想できる。家計消費状況調査によると 2 以上世帯での国内パッケージツアーの消費金額は 20 代以下は 1,068 円に対し 60 代は 3,986 円で高齢者は若年層に比べて約 4 倍多く消費しているといえる。このことにより、高齢者は旅行に対して積極的だといえる。

有馬温泉の概要

有馬温泉は兵庫県神戸市北区、六甲山の麓にある。歴史は古く、人が土を掘る技術がない時代から温泉が湧き出ており、『日本書紀』、『枕草子』にも登場。豊臣秀吉が愛した湯としても有名である。温泉番付では「西の大関」とも言われていた。温泉の種類は「金の湯」「銀の湯」の 2 種類あり、金の湯のお湯の色は赤褐色であり、足湯がある。名物は、炭酸せんべい、温泉まんじゅう、明治時代に日本で初めて造られたサイダーを有馬で復刻した有馬サイダーがある。季節に応じて温泉街ではイベントが開催されている。

図 1: 兵庫県地図



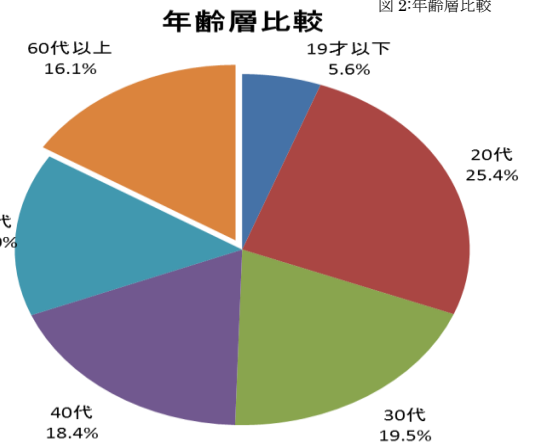
有馬温泉の現状と調査結果

有馬温泉は近畿圏内を中心に毎年 150 万人の観光客が訪れる。

右記の円グラフは神戸市観光動向調査をもとに有馬温泉に訪れる観光客を年齢層別に作成したものである。有馬温泉では、若年層の割合が高く、高齢者層の観光客の割合が 16.1% となり、比較的低い。

温泉街ではたくさんのイベントを開催し、観光客の集客をしている。しかし 2014 年 9 月 14 日に行った高齢者を対象とする観光客 49 人にアンケート調査を行ったところ、有馬温泉でのイベント知っていると答えた観光客は 6 人であった。この 6 人は一年間に有馬温泉に訪れる回数が、4~5 回という他の観光客よりも多いこと、さらに、兵庫県内有馬温泉の近場に住む観光客であった。このことにより有馬温泉で開催されるイベントの知名度は低いということがわかった。

図 2: 年齢層比較



出典：平成 24 年神戸市観光動向調査

まとめ

日本の観光全体では高齢者層の観光客が多いにもかかわらず、有馬温泉では高齢者層の観光客の割合は少ない。そして高齢者は旅行に対して積極的だということがわかった。

有馬温泉では様々な高齢者に対するイベントを企画しているのであるが、知名度が低く、イベントの参加者が少ない。アンケート調査の結果からも温泉街での道幅が狭く車で上まで上がることができず、坂が多いことにより、高齢者が観光しにくくなっているのである。さらに公衆トイレが少なく、高齢者にとって旅行に対する不安要素が多いことが明らかになった。

そして、温泉街でのアンケート、旅館にヒアリング調査をして、高齢者が温泉地に何を求めているのか等を解明し、高齢者向けのツアープランの企画および提案することが課題である。

学外での発表

2014 年 8 月 29 日 韓国の慶州市東国大学で開催された東北亜観光学会に参加、発表し、奨励賞を受賞した。学外の教員や学生と交流することにより、学生自身の「社会的問題把握能力」「社会的問題解決能力」の強化を試みている。

